



医師を増やして
地域医療の再生を
上野 公悦(日本共産党議員団)



問／新潟労災病院の閉院に地域住民は大きな不安を抱いている。こうした声をしっかり聴くことなしに令和5年12月4日に、他病院での受け入れなども含めた具体的な機能再編案が示された。住民へもつと説明が必要だったのではないか。

答／要望があれば、説明会を開くことができたが、そういう声はなかった。

問／広大な地域において、示された医療再編構想で地域医療がしっかり守られるのか。特定の病院に医師や医療機能が集中した場合、大雪や災害時の緊急の医療に支えられないことが懸念される。交通弱者や高齢者から医療が遠くなる。

答／医療を守るのは病院の数だけではないが、指摘されたことも起こりうる。しっかりとしたバックアップ体制で地域医療を守っていく。

問／今回示された再編案は、受け入れ側も施設面・スタッフ面で大きな課題がある。上越総合病院では、新潟労災病院で行ってきた年間千件を超える手術の受け入れは現状では無理があると話しており、口腔外科を受け入れる上越地域医療センター病院も不安を口にしている。県立柿崎病院などでもスタッフ不足が課題であり、医師不足の上、病床数も増やさず、現状での機能再編はさらなる地域医療の瓦解を招くと考える。

答／医療構想会議では、関係する医療機関と、とにかく前向きに受け入れようと協議している。



春日山地域拠点施設の
立地位置熟考を！
高橋 浩輔(みらい)



問／春日山地域の新たな拠点施設について、立地位置や内容等、どのように考えているか。

答／立地場所は埋蔵文化財センター周辺とし、機能は物産、飲食、ガイダンス、観光案内、駐車場とすることを考えている。

問／春日山地域の冬期間の観光の構想は。

答／冬期間は積雪のため、散策道の歩行が制限されるが、謙信公ゆかりの神社仏閣のほか、謙信公も見た春日山の雪景色に加え、新たに整備する拠点施設などにより魅力の向上を図る。

問／そうであれば拠点施設の立地位置は、春日山ゲートボール場付近が適地だと考える。春日山城跡の山容をよく見通すことができる場所なので、訪れる人々に四季折々の春日山の景観を提供できる。埋蔵文化財センター周辺ではそれができないので、検討すべきと考える。

答／史跡指定地内であるので、現状では難しい。

戦没者遺族会の課題にどう寄り添うか？

問／各地区の遺族会の解散が相次いでおり、これに伴い顕在化してくる課題への市の対応は。

答／遺族会が担ってきた慰霊碑や忠魂碑の管理、各地域で行われている追悼法要が行われなくなるなどの課題を聞いている。連合遺族会や上越市社会福祉協議会の意見を聞きながら、可能な支援の在り方を検討していく。



家庭ごみの有料化と
指定ごみ袋の見直しは
鈴木 めぐみ(政新クラブ)



問／家庭ごみの有料化と、指定ごみ袋にバイオマス素材を含む袋を採用したことによる課題は。

答／有料化の課題は、ごみの不法投棄や不適正排出の増加である。また、バイオマス素材ごみ袋採用の課題は、通常の袋と比較し製造単価が高価になることと、製造業者が少なく価格や性能面における競争原理が働かないことが挙げられる。

問／バイオマス素材ごみ袋の導入理由と目的は。

答／地球温暖化防止等の観点から、経費は増加するが、焼却時の二酸化炭素発生量の抑制効果があるバイオマスプラスチック素材を採用した。

問／レジ袋の代わりとして、市指定ごみ袋を1枚単位で試験的に販売できないか。

答／袋の仕様と販売店舗の負担に課題があるため、現時点で実施する考えはないが、引き続き、情報収集に努め、研究していく。



公の施設のフードロス対策自動販売機の設置

問／フードロス対策自動販売機の設置状況は。

答／市施設に設置の自動販売機は事業者が設置しているもので、契約更新の機会にフードロス対策型の設置を働きかけているが、現時点で設置された事例はない。市では、食品ロス削減の推進のため、今後「食品ロス削減推進計画」を策定し、市民への普及・啓発を進めていく。